

目 次

まえがき	
第0章 保形形式	
§1. 保形因子	1
§2. Siegel モジュラ形式	5
§3. テータ函数	12
第I章 テータ因子	
§1. C (反)線形形式	16
§2. C (半)双線形形式	19
§3. テータ因子の標準的表現	23
第II章 リーマン形式とテータ級数	
§1. 被約テータ函数とリーマン形式	28
§2. 周期行列	32
§3. テータ函数のフーリエ展開	38
§4. テータ級数	44
第III章 アーベル多様体の準同形とアーベル部分多様体	
§1. C トーラスの準同形	53
§2. C トーラスの解析的 Moduli 空間 K_n	57
§3. C 部分トーラスと C 剰余トーラス	62
§4. アーベル多様体の完全可約性	67
§5. C トーラスの例, アーベル像, アーベル跡	73
第IV章 偏極アーベル多様体と Siegel 上半空間	
§1. C トーラスとその homotopy 型	82
§2. 偏極アーベル多様体	86
§3. PH 構造	92

第 V 章 テータ函数とその因子

§1. コンパクト C 多様体上の因子	98
§2. 与えられた因子をもつテータ函数	104
§3. Frobenius の定理	114

第 VI 章 アーベル多様体の代数多様体構造

§1. アーベル函数体	118
§2. アーベル多様体の射影埋めこみ	128
§3. アーベル多様体の代数的性質	137

第 VII 章 双対複素トーラスと因子の同値理論

§1. 双対 C トーラス \hat{T}	143
§2. 双対 C トーラスの代数的応用	152
§3. C トーラス T 上の因子の同値理論	162

第 VIII 章 テータ関係式

§1. テータ函数の基本関係式	173
§2. 階数定理	180
§3. 全射定理	184
§4. 斉次関係式	188

第 IX 章 テータ函数の変換公式

§1. Hermite 空間 $\Theta(\mathcal{H}, \phi, \mathcal{Q}, \mathcal{L})$	193
§2. 変換公式(その 1)	199
§3. Γ_{ν} のいくつかの合同部分群	214
§4. 変換公式(その 2)	222
§5. 変換公式の応用	230

文献 235

記号 237

索引 241

